

共に生きる石巻を作り出す連続公開講座

私たちは「共に生きる石巻を作り出す連続公開講座」を行っています。

この講座では、障がい児・者と健常者が共に生きる地域社会を構築していくために行動してこられた方々を全国からお招きし、これから私たちがく 誰にとっても住みよい街・石巻 > を作っていくための手がかりにしていこうことを目指しています。

第2回「地域の学校で共に学ぶ」

9月9日(日) 13:30~16:00

講演者 北村 小夜さん (東京都)

「障害者権利条約批准・インクルーシブ教育ネットワーク」共同代表

会場：石巻市保健相談センター(石巻市鑄銭場1-27) 参加費：無 料

* 駐車場に限りがあります。停められない場合は有料駐車場をご利用ください*

* 託児の必要な方は、裏面の連絡先まで事前にご連絡ください*



「一緒にいいならなぜ分けたー特殊学級の中からー」

(北村小夜著・現代書館)より転載

子どもたちの特殊学級への軌跡をたどるなかで、分けられたことをどんなに恨んでいるのかを知らされた。

私は、分けられた悲哀を少しでも減らそうと、交流にのりだした。

ところが、交流のための学校の態勢はすでに整えておいて「同じ学校の生徒なんだから一緒に学芸会をやろうよ」と私が言ったとき、Hくんはまじまじと私の顔を見て、「一緒にいいならなんで分けた？」と迫ってきた。

またしても、私が何もわかっていなかったことを思い知らされた。

子どもは分けられたがっていない、特殊学級に来ている子どもたちは、ほんとうは来たくなかったのだということを知った私は、その本質に気づかず、少しでも普通学級と一緒にやることをめざした。

それが“分けた”ことを減らすことになると思ったのである。

しかし、考えてみれば「交流」はもともと別のものだから成り立つ。

分けなければ交流は必要ない。

交流が掲げられているところには、必ず前提として、非人間的な隔離や冷酷な排除がある。

◆主催：被災地障がい者センターみやぎ

◆後援：NPO法人障碍児と共に歩む会・石巻重症心身障害児(者)を守る会
NPO法人輝くなかまチャレンジド 地域活動支援センターころこ・さをり
石巻日日新聞・石巻かほく・ラジオ石巻FM76.4

北村 小夜 さん

1950年から86年まで東京都内の小・中学校で教職に就く。

その間、障がい児が普通学級で学ぶことの重要性を訴え、実践してきた。

(65年から86年は特殊学級担任として、子どもたちを普通学級へ戻すために尽力)

「一緒にいいならなぜ分けたー特殊学級の中から」

「地域の学校で共に学ぶー小・中・高校、養護学校教師の実践」

「能力主義と教育基本法「改正」ー非才、無才、そして障害者の立場から考える」

(現代書館)

等、多数の著書がある。

「被災地障がい者センターみやぎ」について

2011年3月、東北地方太平洋沖地震で被災した障がい児・者への支援を目的に、同年3月31日、阪神淡路大震災を教訓に設立された「NPO法人ゆめ風基金」及び「東北関東大震災障害者救援本部」の全面的なバックアップを受け、14の障がい者支援団体が団結して「被災地障がい者センターみやぎ」を設立しました。

その後は、宮城県内において、被災状況調査、ニーズの把握、金銭的・物的・人的支援を行い、現在は仙台市、石巻市、南三陸町の三つの拠点で事業を進めています。

ここ石巻では事務所を蛇田に置き、障がい当事者を含むスタッフが、障がい児・者への支援、生活しやすい街作りのための調査・広報活動等を継続して行っています。私たちは、災害時において障がい児・者が犠牲になることがない街、障がい児・者と健常者が共に生きていく街、そんな街作りを目指し石巻地域の再生に取り組んでいます。

第3回 「共に生きる地域を作り出す」 2012年12月 2日(日)
講演者 山崎 恵さん(北海道 D P I 北海道ブロック会議理事)

第4回 「震災後を生きる」 2013年 3月10日(日)
講演者 牧口 一二さん(大阪府 N P O 法人ゆめ風基金代表理事)

*第3回目・第4回目も、13時半から石巻市保健相談センターで行います。

*この連続公開講座は「公益財団法人三菱商事復興支援財団」の「復興支援助成金」を受けて開催しています。

◆連絡先◆ TEL : 022-746-8012(仙台) 0225-25-5388(石巻)

MAIL : teesaanangel@yahoo.co.jp